



子宮頸がんのなりたちと予防

子宮頸がんヒトパピローマウイルス（HPV）関連がん

ヒトパピローマウイルス（HPV）感染は女性のがん原因の11%を占めるといわれます

HPVが見つかる頻度の高いがん（これらのがんを「HPV 関連がん」ともいいます）

子宮頸がん：99.5%

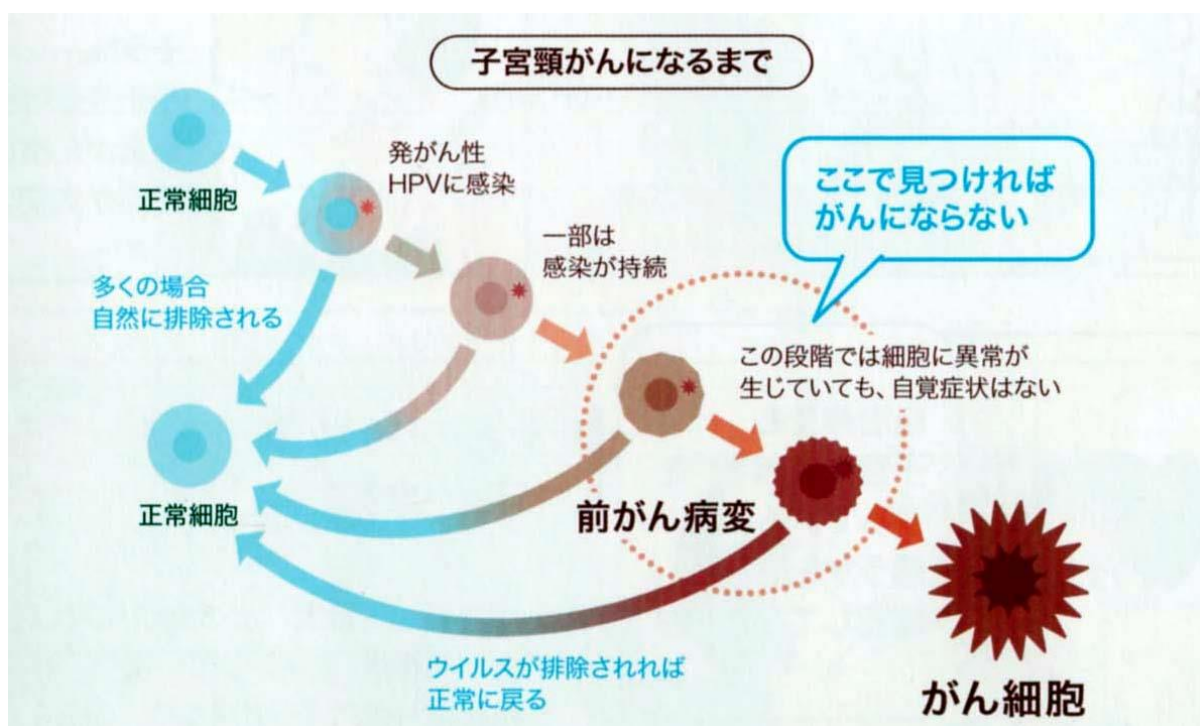
外陰、肛門、陰茎など陰部がん：約70%

口腔、咽頭、喉頭など頭頸部がん：約30%

HPVに感染しても明らかな子宮頸がん（浸潤がん）になるには5-10年以上の時間がかかるうえ、その頻度も1000人に1人以下ですが、日本では、毎年約10000人の女性が子宮頸がん（浸潤がん）に罹患し約3000人の女性の命が奪われています。

子宮頸がんは「マザーキラー」ともいわれ、30台前後の若いお母さんに進行したがんが発症した場合、幼いお子さんを残して亡くなられていくことがあります。

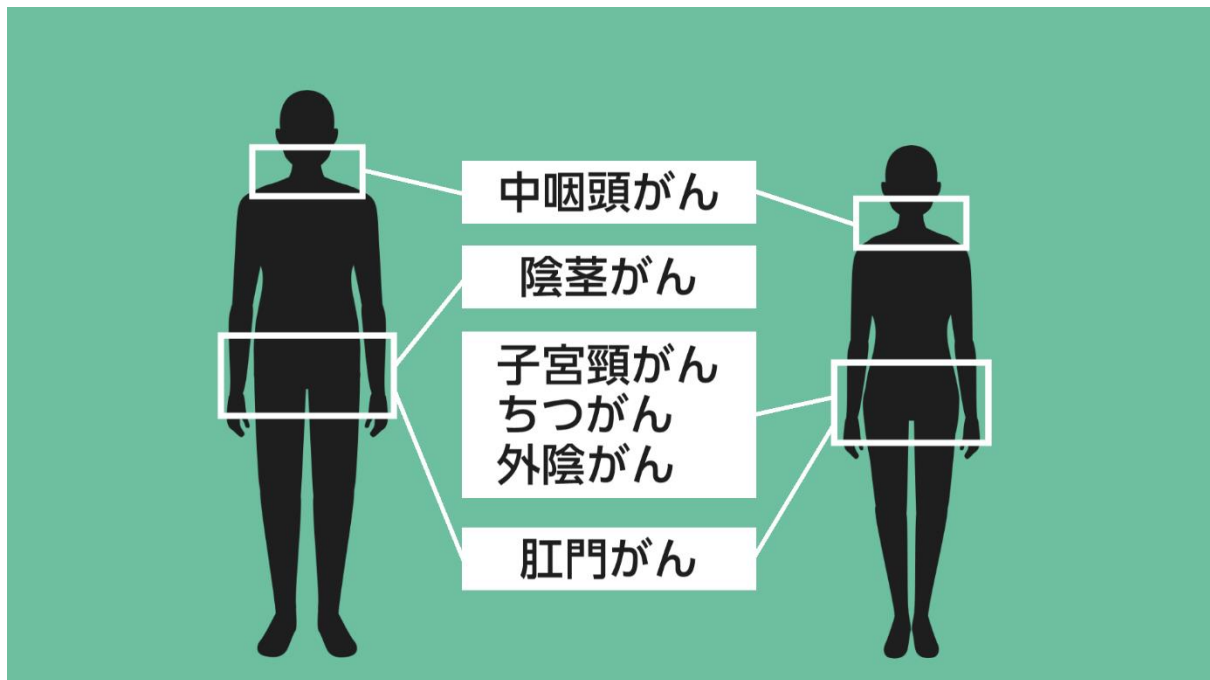
しかし、現在は予防効果の高いHPV予防ワクチン（一次予防）があり、ワクチンをより多くの方に接種していただくことと、さらに定期検診（二次予防）を組みわせることによって、いずれ子宮頸がんは撲滅されるとWHOは宣言しています。



子宮頸がん征圧に有効な二つの武器があります

- HPV ワクチンは感染のリスクを下げます（一次予防）
- 一次予防できなかった場合も、子宮頸がん検診で前がん病変のうちに発見・治療できます（二次予防）

ヒトパピローマウイルス（HPV）感染によって発生する子宮頸がん以外のがん



ヒトパピローマウイルス（HPV）は子宮頸がん以外に上図のようながん（HPV 関連がん）の原因になります。中咽頭がんや陰茎がん、肛門がんなどは男性にも発生するので、女性だけでなく男性にも HPV ワクチンの無料接種を行う国が増えています。

HPVワクチンの接種状況

The collage includes a CDC poster titled "HPV vaccine" with a call to action "For more information call 13 11 20" and a photo of a boy receiving a vaccine. Text overlays include: "オーストラリアでは男児も国の無料接種対象" (In Australia, boys are also eligible for free national vaccination) and "米・英などでも男児への接種を推奨" (In the US, UK, etc., vaccination for boys is recommended). A large orange box at the bottom states: "多くの先進国では男児への接種も拡大" (In many advanced countries, vaccination for boys is also expanding).

2023年10月時点で、男性は公費接種の対象ではありませんが、自費接種は日本でも可能です（1回2-3万円、3回接種）。